

自己点検・評価報告書2021・2022 全学報告会

3. 芸術学部・芸術学研究科について

発表者 芸術学部長 大島 武

4.1.1.授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定

【芸術学部のディプロマ・ポリシー】

1. メディア芸術を基盤とした各分野の**専門的な知識**を有している。
2. 作品を制作するための各分野の**専門的な技能**を有している。
3. 多様な人々、社会、文化に関する**幅広い知識と教養**を有している。
4. **コミュニケーション力**や**論理的思考力**等の汎用的な技能を有している。
5. **リーダーシップ**や**メンバーシップ**等の社会で必要な態度を有している。
6. これまで修得した知識・技能・態度を総合して、**新たな提案、表現ができる創造力**を有している。
7. **自ら継続的に学び、自己を成長させる志向性**を有している。

4.1.1.授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定

【芸術学研究科のディプロマ・ポリシー】

《前期課程》

- 1.各領域における豊かな創造性、高度な専門的知識及び技術を身につけている。
- 2.各領域において作品制作・研究を進めるにあたり、必要となるコミュニケーション能力を有している。
- 3.作品や研究に関し、説明・議論できる能力を有している。
- 4.広くメディアアート全般を進歩・発展させるための創造的学問的素養と健全な精神を有している。

《後期課程》

- 1.社会一般を背景にした問題認識・抽出能力を有していること、及び課題の社会的、学術的価値を的確に評価できる。
- 2.専門分野における高度な学識を有し、かつ必要に応じて他分野の知見を自ら修得できる。
- 3.問題解決のために既往の理論体系との位置づけを明確にした新たな理論を構築する能力を有する。
- 4.問題解決に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有する。
- 5.広くメディアアート全般を進歩・発展させるための創造的学問的素養と健全な精神を有している。

4.1.2.授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

芸術学部

- ①実技系教育の重視と積み上げ型の編成
- ②学科コア・カリキュラムの明確化
- ③卒業研究活動の充実

芸術学研究科(前期課程)

- ①「基礎分野」「領域分野」「関連分野」の編成
- ②専門領域の深化・研究活動の充実

芸術学研究科(後期課程)

- ①学際領域での研究を実現できる科目の設置
- ②博士論文作成に向けての学年ごとの特別研究指導

4.1.3.教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置

イ)教育課程の編成にあたっての順次性・体系性への配慮

エ)個々の授業科目の内容及び方法

カ)各学位課程にふさわしい教育内容の設定

②学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の実施

・キャリア教育

4.1.4.学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

ア)単位の実質化を図るための措置：

CAP制(半期28単位以内、年間49単位以内)

イ)シラバスの内容:

統一フォーマットによる均一化、教務委員会での点検と改善

エ)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法

小テスト、ミニレポート

オ)学生の理解度を課題、レポート、小テストを実施することにより把握

カ)履修指導・学習指導:

専任教員による直接指導

ケ)研究指導計画の明示:履修要綱に記載し、計画に沿った研究指導を実施

4.1.5.成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価及び単位認定を適切に行うための措置

- ・試験を実施の上、単位を付与
- ・既修得単位等については、教授総会で審議の上、本学の単位として認定
- ・成績評価の客観性・透明性を確保できるようGPA制度を導入
- ・卒業・修了要件は履修要項に明示

②学位授与を適切に行うための措置

- ・学位授与基準及び学位授与手続きの明確化(学則、学位規程)
- ・学位授与審査の厳格化(学科予備審査、教授総会・研究科総会にて審査承認)
- ・学則、規程等に則り厳密性を確保し、適切に運用

4.1.6.学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

アセスメント・ポリシーに基づく、学修成果の測定

【その他の測定方法】

- ・学外発表やコンペティション、卒業制作展
- ・授業評価アンケート
- ・ルーブリックを活用した学習成果の測定
- ・卒業生アンケート結果を反映したカリキュラム改善

4.1.7.教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

芸術学部

授業改善及びカリキュラム等を教務委員会にて検討することにより組織的に対応。

芸術学研究科

大学院運営委員会にて点検・評価を実施。

授業科目の新設・廃止等のカリキュラム変更

評価が高い授業科目の教員を顕彰

<問題点>

- (1)成績評価に関する事項については、学則及び各学部の学修に関する規程により定めているが、全学的な成績評価に係る規程が制定されていない。全学で統一的な成績評価指標の策定を検討する必要がある。
- (2)ループリックについては、教育分野の特質上、評価項目として表しづらい感性の部分等をどのように表現するか等の問題を抱えており、更なる改善が必要である。
- (3)教育の実施状況の把握について、内部質保証委員会と課題改善部会によるPDCA サイクルは構築されているが、教学マネジメント部会が学修成果の把握と可視化により部局の支援を行う仕組みを整備する必要がある。

7.1.2.学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①学生支援体制の適切な整備

修学支援:教務委員会 ↔ 教務課 ↔ 学修サポートセンター

学生支援:学生委員会 ↔ 学生課 ↔ 保健センター なんでも相談室

②学生の修学に関する適切な支援の実施

学生の能力に応じた
補習教育

オンライン教育

障がいのある学生へ
の支援

成績不振者対応

退学者への対応

経済的支援

7.1.2.学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

③学生の生活に関する適切な支援

学生相談

心身の健康
保健衛生

④学生の進路に関する適切な支援の実施

支援体制

進路選択にかかわる
支援

<問題点>

●「学生チューター制度」は芸術学部における「ピア・サポーター」として期待したが、活動報告を精査したところ、想定した活動が十分なされていなかった。また、チューターとしての適性ある学生確保が難しいことから、今後は当制度の見直しをおこない、「学修サポートセンター」へ移行できないか検討をおこなう。

全体のまとめ

＜芸術学部・芸術学研究科の教育課程・学修成果＞

- ①ディプロマ・ポリシーに基づき、教育課程の体系、教育内容、授業科目区分、授業形態等を示したカリキュラム・ポリシーを定め、公表している。
- ②カリキュラム・ポリシーに基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じている。その一環として、履修指導を適切に行っている。
- ③ディプロマ・ポリシーに示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価している。

＜芸術学部・芸術学研究科の学生支援＞

学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることを支援する体制を整備している。

- ①学生の能力に応じた補習教育、補充教育を行っている。
- ②大学独自の奨学金、学外の奨学金等を通じた経済的支援を充実させている。
- ③キャリア支援に関する組織体制を整備し、進路選択に関わる支援やガイダンスを実施している。

今後の課題

1. 「教育課程・学習成果」については、成績評価指標の策定、ルーブリックの有効活用など、芸術学部・芸術学研究科における教育の特性に合わせて整備していきたい。
2. 「学生支援」については、これまでの待ちのサポートから一歩進め、出席状況の芳しくない学生に積極的に声をかけるなどして学生の抱える諸問題に対応し、離籍者抑制につなげたい。
3. 上記をはじめとする様々な施策により全体の充実を図り、入学して良かったと学生に思ってもらえる芸術学部・芸術学研究科であるよう、不断の努力を続ける。